檜原遺跡（C区）発掘調査説明会資料

2007年7月24日（火）

財団法人山形県埋蔵文化財センター

図1　B区（平成18年度調査）から見たC区

調査要項

遺跡名	檜原遺跡
遺跡番号	平成8年度登録
所在地	山形県南陽市大字中落合字檜原他
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道113号赤湯バイパス改築事業
現地調査	平成19年5月15日～平成19年7月31日
調査面積	4,500㎡
遺跡種別	集落跡
時代	平安時代・中世・近世
遺構	柱穴・溝跡・土坑
遺物	須恵器・土師器・陶器・磁器・石器
調査担当者	調査課長　長橋　至
	専門調査研究員　伊藤邦弘
	主任調査研究員　氏家信行
	調査研究員　庄司隆志
	調査員　山澤　護
調査協力	南陽市教育委員会
	置賜教育事務所

1　はじめに

檜原遺跡は、一般国道113号赤湯バイパス改築事業に伴い、山形県教育委員会により実施された遺跡詳細分布調査の結果、平成8年度に確認され登録された遺跡です。その後、工事計画との調整が計られ、平成17年度に行われた試掘調査を基に、工事にかかる部分について、(財)山形県埋蔵文化財センターが委託を受け、記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになりました。

調査では、遺跡を覆う表土を重機械で掘削した後、手作業により遺構が見えるところまで少しずつ土を削りました。そうして見つかった柱穴や溝などを埋まった土を良く観察し、写真や図面に記録しながら掘り進めました。

檜原遺跡の発掘調査は、平成18年度にA・B区の7,400㎡を調査し、今年度はC区の4,500㎡を調査しました。2ヵ年の調査で得られた記録類や遺物は、山形県埋蔵文化財センターでの整理作業の後、発掘調査報告書としてまとめられ、平成21年度に刊行される予定です。

2　遺構と遺物

今回の調査で見つかった遺構には、柱穴・土坑・溝跡などがあり、総数は約650基に及びます。

中でも最も多いのは柱穴です。柱穴の多くは、直径20～40㎝程の円形で、深さは20㎝前後しか残っていませんでした。丸くて小さい等の穴の特徴から、中世～近世にかけての掘立柱建物跡があったと推定できます。しかし、柱の数は多いのですが、建物は現在のところはっきりしていません。これから柱穴の配置や形、周囲の遺構との関係など時間をかけて検討を加える必要がありそうです。

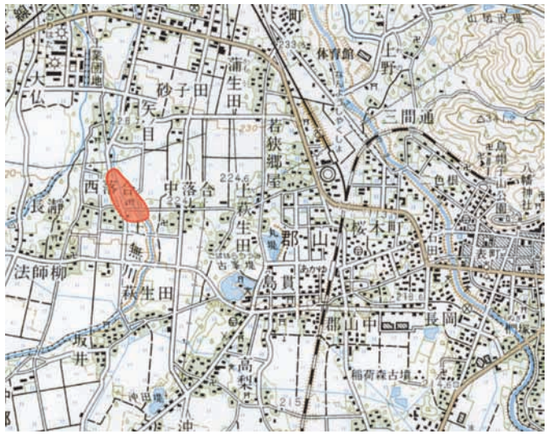


図2　遺跡位置図(1:50,000)

土坑は直径が1m前後の円形で、浅いものがほとんどですが、長楕円形で、炭や焼けた土の塊がたくさん入っているものも見つかりました。しかし、これらがどんな目的で利用されたかはまだわかっていません。また、土坑が比較的まとまって見つかっているところと、ほとんど見られない区域があることは、土坑の性格や、その区域の位置付けを考えるヒントになるかもしれません。

溝跡には大小の規模が見られます。大きい溝跡では、調査区の中央に南北方向に掘られた3125号と、それにほぼ直交するように西側に4条、東側に2条の東西溝が見つかりました。3152号溝跡は最も規模が大きく、幅約4m、深さは80㎝程あります。この溝跡が埋まった後に同じ場所に溝が掘られた状況が見られました。出土した遺物から、新たに掘られた溝の時期は近世のようです。東西の溝跡は3152号溝に比べ、いずれ

図3　遺構検出作業

図4　遺構の掘下げ

図5　記録作業

も浅く、同じ時期に掘られたものではないようです。今のところ、3152号溝跡が埋まった後に掘られた近世の溝跡と同じ時期に作られたのではないかと考えています。

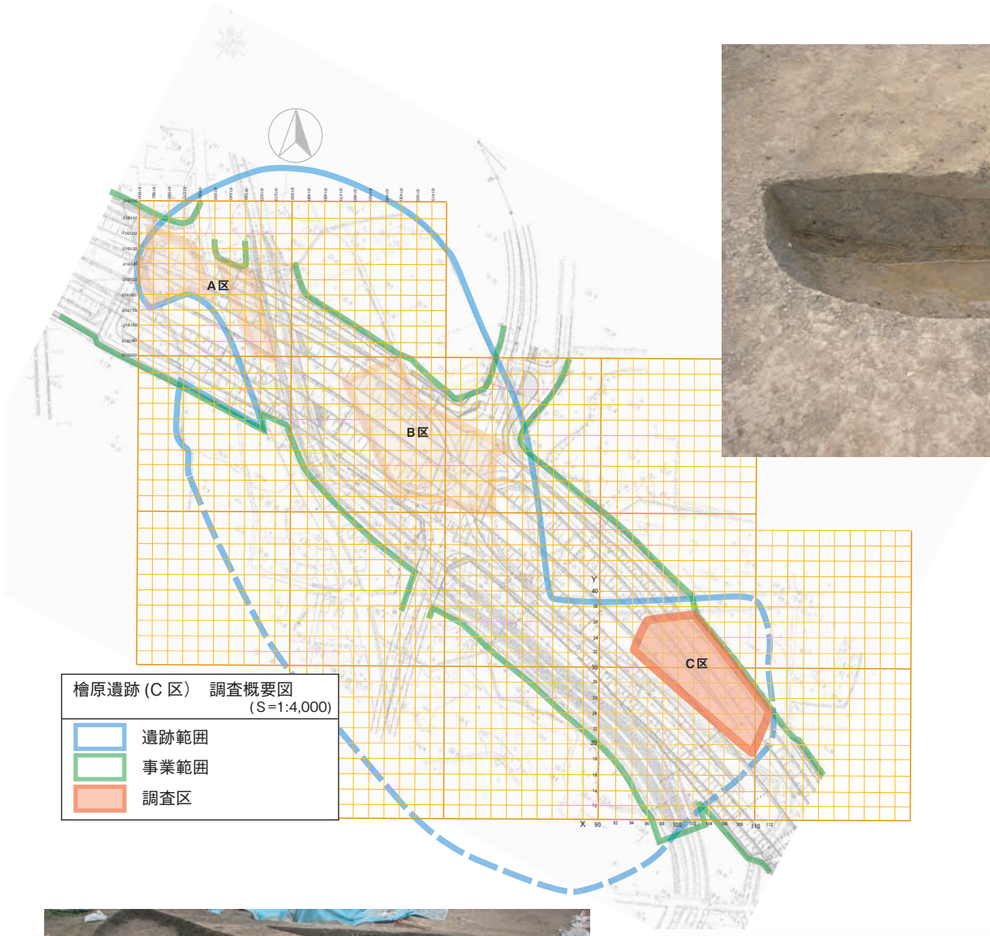
出土した遺物は、縄文時代の石器、平安時代の須恵器・土師器などの土器、中世の陶器、近世の磁器、砥石などの石製品があります。昨年度の調査でも、縄文土器や石器が出土しましたが、今回の調査でも縄文時代の遺構は見つかりませんでした。須恵器には、有台坏、壷、甕などの種類が見られました。また、土師器にも、坏や甕と思われる破片が見つかっていますが、たいへん小さくもろいため、形がわかるものはありませんでした。中世から近世にかけての陶器や磁器には、茶碗、皿、擂鉢、甕、徳利などがあります。多くは江戸時代以降に作られたもののようです。これらの出土遺物を詳細に調べることによって、柱穴や溝が掘られた時期を絞り込むことが可能になると考えられます。

3　まとめ

今回の発掘調査では、平安時代、中世、近世の集落の一部が見つかりました。平安時代の遺構は、主に調査区の東部で見つかっていることから、集落の主体は南東部にあるようです。一方、中世から近世にかけての遺構は、北西部に広がると推測されます。地形的には北西部にいくにしたがい低くなっています。中世以降の集落が、低地に開けていったことを知る好例です。

昨年度調査したA区からは、溝で区画された中世の屋敷跡が見つかりました。B区では、平安時代に火を使った生産活動または祭祀が行われていたようです。県道改築に伴う調査では、方形の堀を廻らせた中世の館の一部が見つかりました。隣接する遺跡では、弥生時代の遺構、遺物が見つかった庚壇遺跡、奈良～平安時代の官衙的な様相を持つ中落合遺跡などもあります。今後、発掘調査で得られたこれらの資料を整理して、この地区の歴史的な変遷や景観を考えていきたいと思います。

図6　遺構が見つかった状況



3150 号土坑

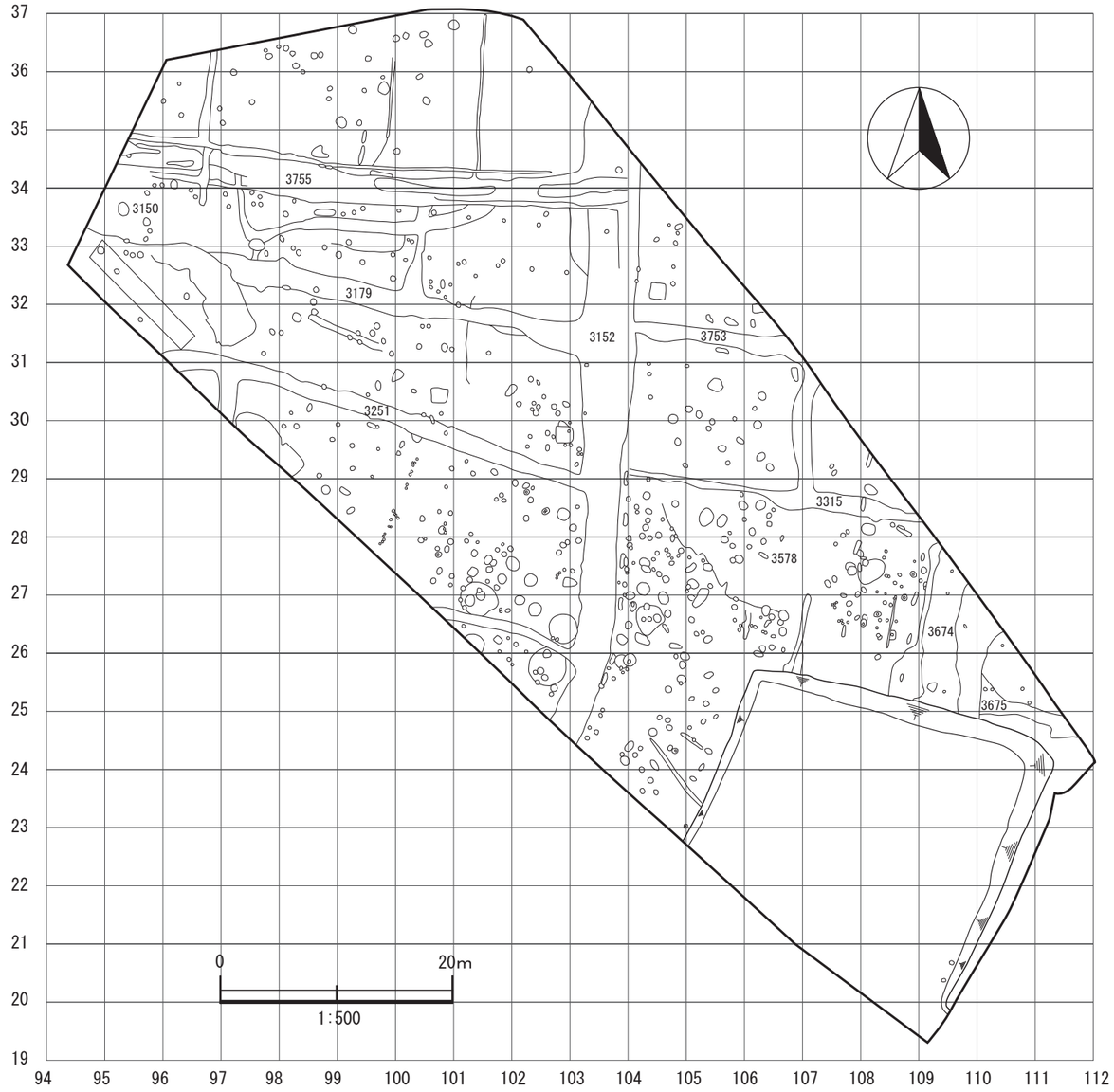
3578 号土坑

3674 号溝跡

3152 号溝跡

柱穴群

3755 号溝跡



檜原遺跡Ｃ区遺構配置図